

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



茶指導販売課 菊川 響

寒さが続く2月は、一番茶になる越冬芽が休眠から徐々に目覚め、肥大と成長を始める時期です。気象状況に注意し、茶芽の生育に合わせた管理作業を進めていきましょう。

春肥の施用

春肥：一番茶だけでなく二、三番茶へも影響します。収量や品質を向上させるためには、春肥の施用が重要です。年間施肥量に対し、窒素50%、リン酸・カリは30%に相当する量が目安です。

茶樹の養分吸収は、気温・地温が上昇する2月下旬～3月上旬頃に始まるので、10aあたり、窒素8～10kg、リン酸7～9kg、カリ10～13kgを2月上旬・3月上旬の2回に分けて施用してください。

乾燥した土壌では、茶樹根からの養分吸収量が少なくなり、2月は、1年間の中で特に降水量が少ないので、気象情報に注意して施肥日の計画を立てましょう。

病害虫の防除

①1月下旬～3月上旬

ブルートMC（希釈倍率1000倍 1000L/10a）でクワシロカイガラムシの防除を行ってください。茶株内部にも均一にかかるように、丁寧に散布しましょう。散布時期は1番茶摘採の30日前までとさせていただきますが、各地域の防除規制に従って作業してください。

②2月中下旬～

チャトゲコナジラミ、カンザワハダニが防除の対象です。萌芽後の薬剤散布を避けるため、防除を行います。葉裏にもかかるように400L/10aの薬剤を丁寧に散布してください。

また、昨年まで越冬害虫の発生密度が抑えられていても、春先にかけて密度が高まる場合があります。多発生を防ぐため、茶園の状況に合った管理を行ってください。